

導入事例

株式会社クロステック

バラエティー番組の収録に
24 台の Ki Pro シリーズを使用番組収録に Ki Pro シリーズをフル活用
Ki Pro シリーズ 3機種を現場に投入して、収録

株式会社クロステックは、テレビ朝日系列で 2014 年から放送している中山雅史と山崎弘也の冠番組「ゴン中山 & ザキヤマのキリトル TV」の収録で合計 24 台の Ki Pro を使用した ProRes ファイル収録を行なった。ファイル収録、サルベージ、クリーニング等、高いデジタル技術を持つ同社では 2012 年の創業当時から Ki Pro を導入、運用しており、2014 年には Ki Pro Rack を導入、2015 年に Ki Pro シリーズの最新製品である Ki Pro Ultra を導入している。

時間短縮と品質保持のために ProRes 収録を
メインに採用

株式会社クロステックは、テレビ朝日系列で 2014 年から放送している中山雅史と山崎弘也の冠番組「ゴン中山 & ザキヤマのキリトル TV」の収録で合計 24 台の Ki Pro を使用した ProRes ファイル収録を行なった。

ファイル収録、サルベージ、クリーニング等、高いデジタル技術を持つ同社では 2012 年の創業当時から Ki Pro を導入、運用しており、2014 年には Ki Pro Rack を導入、2015 年に Ki Pro シリーズの最新製品である Ki Pro Ultra を導入している。

今回の番組収録では 上記 Ki Pro シリーズ 3機種を現場に投入して、収録を行なった。

これまでは収録当日に HDCAM 収録と同時デジタイズ (テープの素材を SD にしてファイル収録) を行っていたが、今回は収録日からオンエアまでの時間があまりなかったので、番組制作サイドからできるだけ早く作業を始めて、要件ギリギリまで編集を行いたいという要望があった。こういった背景から、本線もファイル収録で行うことを株式会社クロステックイメージコーディネーター

知々田 治氏は決心したという。

知々田氏「今回からファイル収録を本線として行うことにしました。Ki Pro Ultra 7 台と Ki Pro Rack 5 台に本線の HD 信号を入力し、その出力を 7 台の Ki Pro Rack と 5 台の Ki Pro に入力し、内部で SD にダウンコンバートしたオフライン用途のファイル収録も同時に行ないました。念のため予備として HDCAM も回しました。3 時間の素材でしたが、SD は 1 時間後に納品、HD は翌日には納品できました。12 系統の収録でしたので、サブのレコーダーも大量に準備しました。」

収録完了後、1 時間でオフライン編集がスタートでき、翌日には HD の素材がデータ化され納品されているため、収録の翌日には HD での編集が出来る。テープベースでは考えられないスピードである。

収録現場では 24 台全ての Ki Pro は Ethernet 接続されており、WEB ブラウザから各 Ki Pro 端末にアクセスし、設定が行えるようになっていた。収録にはギャングレコーディング機能を利用し、ブラウザ上でマスター機を REC スタートすると一斉に録画が開始される仕組みとなっていた。

4K 60P への対応が Ki Pro Ultra 導入の決め手

知々田氏「Ki Pro Ultra 導入に至った経緯として、Ki Pro、Ki Pro Rack を採用してきた経験があります。Ki Pro を採用した一番の理由は、信頼性のある HDD が採用されていること、専用ケースで保護されている等、メディアの安全性が保たれている点でした。HDD だと、サルベージに優位性がある、物理障害以外ではなるとかかりますし、クリーニングしていれば、フレームスキップ等の問題も避けられますので。」

「また、お客様の編集環境が Final Cut Pro だったこともあり、ProRes ファイルでの収録というのもメリットでした。頻繁なバグフィックスにも安心感を持って選択に間違いがないと思いました。他社の同様の製品と比べて、保護性能がしっかりしている部分も気に入っています。」

4K の要望が出始めたことで、器材選定にあたり他社の器材も検討したが、オペレーションの統一ができることを第一に考え、新たに Ki Pro Ultra を導入したとのこと。

知々田氏「当初は、Ki Pro Quad を第一候補にしていますが、Ki Pro Quad は 4K 30P までの対応なので 60P の要望に応えられませんでした。そこで、発売直後の Ki Pro Ultra に目をつけました。Ki Pro Ultra は 4K 60P に対応しており、この点が導入の決め手となりました。現在、Ki Pro Ultra とその他の Ki Pro シリーズでは新機能の追加などもあったり、オペレーションに多少の違いはありますが、今後のファームウェアアップデートで解消されると思っています。オーディオは、AES/EBU が D-Sub 25pin になったことで、当初考えていた MADI との融合にも拍車がかかると期待しています。」

導入機材



Ki Pro Ultra



Ki Pro Rack

本システムに関する問い合わせ先



(株)アスク メディア&エンタープライズ
セールスサポート部(リーンプェイズ)

☎ 03-4400-6159 ✉ sales@reinphase.com
🌐 www.aja-jp.com

